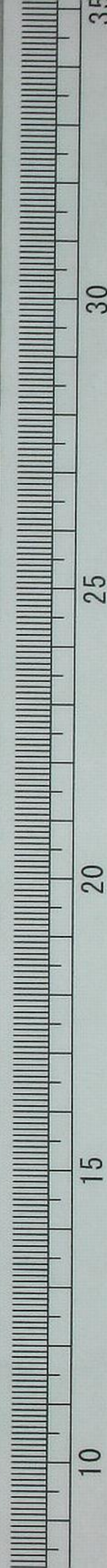


柳田文庫  
文庫11  
A1513



三國書

文庫11  
A1515

耶穌降生二千八百七十六年 翻譯委員社中

# 新約聖書希伯來書

明治九年 日本橫濱上梓

新泉文庫

新泉文庫

使徒ポロヘブル人よあくる書

第一章 神むろいあはるゝの區別をなす。あはるゝ方を  
 めて預言者により列祖よつげたまひし。この末の日に  
 いその子よよりてまもりたづけたまへり。神はくまをこそ  
 萬物の嗣とす。このりかきをしりてあはるゝの世界をつくり  
 たり。この神のさうらひ光輝。その質の眞像よてあはる  
 權能のさうらひをてまもるゝの扶持。このりかの罪のさ  
 よめをさるゝてたらしむる。このりかまた權威の右よさるゝ  
 りまらるゝ。名の天のつらひれ名よ。このりか  
 りまらるゝ。このりか。その天使たあゆまらるゝ。曾て

新約全書

希伯來書第一章

自一至十節



うらんためよりよく篤つてあむべし。そき天使とち  
よんつげたあひし。こころを。堅立しそまぶとの違逆と  
あつたまざりしみる公正むしをさうけたらん。あひの  
のじとき大なる救とをさうたらあはざりにしそいそのか  
るこころをえんや。斯いよめ主よりてあめさうれしる  
をまじしりのよめ。つららに言證し。神もまじそめ  
聖音にあつたひて休徴と奇跡あまびさあくの異能と  
うらあつてあるとしらの聖靈とめそ。のまじらし。とめよ  
證せり。それ神はそれらに。いふとそあのかうたうんとま  
世と天のつらひたあま服せざりき。あつ篇よ。人あは

あつていひけり。人を誰とせんあんぢこれな心よとむかや。  
人の子をたてし。そあんぢらまを眷顧すや。あんぢこれ  
を天のつらひとあよりまじし。あつらしむ。うらまは禁と  
尊をあらむせ。まあんぢの手を。つくりし。あひのうへ  
よこれを立し。あんぢまぶそのあひを。その足下は服と  
しむ。まじは萬物をこまじは服さし。むまばうあは服  
さむし。そのころあひのあ。これと今にららる。まやこれ  
らまぶそのあひの。いまま。これら服せし。まみま。たご  
まら天のつらひたあよりまじし。微小されし。あひのま  
あをち死のくま。みさうひ。まよりて禁と尊をあらむ

らさむけたる 耶穌をみたり。その志もたらの神の恩より  
まぶさの人よりなり 死を嘗へんがためあり。これあはれ  
子を榮よみあびんとてそれをまぶさの君をして 苦難を  
めて成全しむる。まぶさの人の 歸するところ 萬物を  
つくわすのよりのまぶさの心あり。それきよむるものと  
まめらむるものとまぶさの心あり。このゆゑよりこれ  
兄弟とてあつるを恥しむ。たまたままぶさの心あり。これ  
まぶさの名をまぶさの兄弟とあめさん。まぶさを 教會のうち  
に讚んまぶさの心あり。ついでこれに 依頼んまぶさの心あり。  
れと神の心あり。これにまぶさの心あり。子をみよ。それこそまぶさの心あり。

に肉と血ともをまぶさの心あり。まぶさの心あり。これにまぶさの心あり。具か。  
られ死をめて死の權威をめてるもの。まぶさをまぶさの心あり。惡魔をば  
らげ。ついで死をまぶさの心あり。生涯つるまぶさの心あり。まぶさの心あり。  
んためあり。實は天のついでにまぶさをたまたままぶさの心あり。ブラバの  
子孫をたまたままぶさの心あり。このゆゑに神は屬するまぶさの心あり。ついでに  
と忠義ある祭司のまぶさの心あり。民のついでにまぶさをあがまぶさの心あり。  
めは諸事よあはれ兄弟のまぶさの心あり。まぶさの心あり。宜あり。まぶさの心あり。  
みづからまぶさの心あり。まぶさを 艱難をらむ。まぶさをまぶさの心あり。まぶさの心あり。  
の心を救助するまぶさの心あり。

第三章 一のゆゑにまぶさの心あり。天の召をうむ。まぶさの心あり。



心さしつゝとて活神のまよりをあるまじうることあらん  
やう謹慎マツルべし十三。あんぢらのうち誰たれひとり罪つとめのあきむさ  
よよりと剛愎ガウケンよあらざるやう今日けふととあるらんちよ日  
がたがひよあひ勸勉ケンケンよ十四。そのつねらめしむるもの信仰  
板いたをとりまてのこころをキリストキリストと與ともなひのこころん  
まそれ云いふことあり。のこ今日けふそのこころをさかすを激怒ゲキドを  
ひきこしとまのこころん。あんぢらの心こころさうしてくみんま  
ありきま聞きてまはらうをひきこめぬたをさや。モーセ  
よあさかひてエジプトよりひきこまむそのものよあさ  
まやま神かみハ四十年よんじゅうねんのあひご誰たれよむらひてしうらや。罪つとめ

我われをこころしてその屍みせを野のよたふせしめぬらぬ  
あさかひや十八。まてその安息やすみよらうららむと誰たれよむら  
てちらひしや。信仰あいきせざるしめのとものに抗たい言ごんふあさかひや  
十九。こころよらてみまを。うれらう入いらぬ城しろえさうしに不  
信しんよよりてあり

第四章よんしやうこのゆゑにこころら畏懼おそべし。そのやまみよらや  
そこの今いまもあふのこころらあそらくはまこあんぢらの  
うちこころに及およぶものあはん。そのこころらうらうら  
こころ福音ふくいんをのこころら。たぐりむらうら  
ららの言ことをその信仰あいきまらうらうらうらゆら。聞者きこ者のに益えき







かみみてあつみせり。またほろの篇よ。あんぢらひのきりあ  
くメルキセデクのくらゐのじらき祭司とらひひあへる。  
ガジと〜セウを肉體よあり〜とらき哀哭するさあが  
して死よりあのをさましくひらるのよひのり。まこ懇求  
する。その敬畏よりてきり〜をこえ〜られ子  
たまひも受る〜の〜みよよりて順服し〜る  
らひ丸まぐよ完全けむぐはむぐてうまにあら〜めめ  
永救のゆ〜るあ〜り。の〜メルキセデクの〜めめ  
き祭司のさ〜と神よ〜らねま〜いねよつきて  
とららあ〜の〜とあ〜。あんぢらひが甲

よめきよよりて講明〜。またあんぢらひの時とあら  
らとひさ〜けむを人の師とあら〜きめめ。今まこ  
神の志あ〜たまへる教の端城と〜らむむつをさる。せ。  
あんぢらひ〜き食物あら〜乳をりあら〜きめめとあ  
ま〜。あなよを乳をりあら〜の赤子あ〜む義よつける  
と〜は熟せむ。それ〜き食物い〜るをさ〜らせ  
練て善惡を〜きまへらる成人のりあら〜めめあり  
第六章 一のゆゑよ〜らキリストの〜へのま〜めを  
そふれ。死行の〜あ〜め。神よつける信仰〜への  
洗の禮。ま〜手をあ〜らと。死〜人のよみ〜り。かぎりる

き刑罰。これらのまじりのめとめらうてびあくしをせま  
して完全なまじりむぐ。神のまじりむぐはむらうて行  
ん。そのひらび光照を元天のたまののとりけ聖霊を  
らむり神のよきいとをと來世の權能とをあらそひて  
のち六墮落するもの神の子とあそび十字架をつら  
顯辱とまじりがゆるぎ。まじりむぐを悔改はたあうて  
ことあそびむらうて。そむ地をむぐ。そのうへよふむら  
雨とまじりむぐ耕者のたまよるべき菜蔬を生ぜを神よ  
りめむみとらう。されど荆棘とあそびむぎを生ぜたま  
れ。うの誼とあう。そのたまのやうむぐ。九愛するのめよ。

とむらう如此むらうて。あんがう。らむたまじりむらうと即ち  
はむらうてあうきむらうてをあう。信ぜり神のあんがう。さ  
きよ聖徒は役事しまよるはこれよ。うらうその功勞と  
聖名のたまよあう。その愛をむらう。不義あるもの  
よあらむ。あんがうあめ。終よむらう。むらうひま  
ぐらむらう望をたのむらう。以前とある。むらうむらう  
あらむ。あうむらう。その信仰と忍耐をむらう。や  
くそむを翻るものよ。あうむらう。むらうむらう。むらう  
むらう神のアブラムよ。あうそむらう。むらうむらう。自己よ  
あはらむもの。指てあう。むらうむらう。あうむらう。

さして誓<sup>ちかひ</sup>しむるもひけつら。いよ進<sup>すす</sup>みんぢを大<sup>おほ</sup>よめくまん。  
まゝまんぢの子孫<sup>あとごん</sup>をあるはよ益<sup>まさ</sup>ん。この進<sup>すす</sup>まのびせうこの  
いよ約<sup>やく</sup>束<sup>そく</sup>のものをえんてう。あはよを人もあのれよりま  
ふれたるものをさしてちうふ。まゝ事<sup>こと</sup>をさしてむる誓<sup>ちかひ</sup>はま  
ての進<sup>すす</sup>らあうをひをとむらなり。まゝ進<sup>すす</sup>むが神<sup>かみ</sup>はやく  
そゝをうつものよ。その昔<sup>むかし</sup>のこの進<sup>すす</sup>らざるはまをさすやく  
表<sup>あらわ</sup>さんとしてやくそくのうよまゝ誓<sup>ちかひ</sup>をうてしまふ  
神<sup>かみ</sup>のしつゝあるらとあはまざるらよ二<sup>ふた</sup>件<sup>けん</sup>のこのをりまきこ  
ら。前<sup>まへ</sup>よりうとこの望<sup>のぞ</sup>まんとて怒<sup>いら</sup>まのぞれらるま  
まらざるまあんがためあり。それらこの望<sup>のぞ</sup>のたま

あひの錨<sup>いかり</sup>のうとて。堅<sup>かた</sup>固<sup>かた</sup>しをうらうを慢<sup>ま</sup>のらちよし。下<sup>した</sup>で  
まらのこのは耶<sup>い</sup>穌<sup>す</sup>さきまはてそのとこのはうメルキセデク  
の位<sup>ゐ</sup>のうとてかぎらるゝ祭司<sup>さいし</sup>のまさとるまら  
第七<sup>なな</sup>章<sup>しょう</sup> このメルキセデクのサレムの王<sup>おう</sup>よしてうき神<sup>かみ</sup>の祭司<sup>さいし</sup>  
あり。アブラハム王<sup>おう</sup>たをうらうとてうらうとまき。このれア  
ラムをむらうを祝<sup>いは</sup>せり。アブラハムこれよまむて所<sup>ところ</sup>獲<sup>と</sup>の十分<sup>じゅうぶん</sup>  
のうをうらうら。まがその名<sup>な</sup>をとけを義<sup>ぎ</sup>の王<sup>おう</sup>つきよサレムの王<sup>おう</sup>  
といふ。これまあをうら平<sup>へい</sup>康<sup>こう</sup>の王<sup>おう</sup>あり。このれ父<sup>ちち</sup>あり母<sup>はは</sup>あり  
族<sup>しゆ</sup>譜<sup>ふ</sup>るゝ生<sup>なま</sup>のをもめるゝまゝをうらうもる。神<sup>かみ</sup>の子<sup>こ</sup>は  
うとてまらうつねは祭司<sup>さいし</sup>より先<sup>せん</sup>祖<sup>ぞ</sup>アブラハム所<sup>ところ</sup>獲<sup>と</sup>の

つこのよきもの十分の一をゆてくれよあぢあぢがその人  
のいふ尊うとあひふべし<sup>五</sup>レビの子孫のらあ祭司のつと  
めをうくるもの律法はあぢあぢひて民をもちその兄弟  
より十分の一をとるとを命ぜらる。うきらふアブラハムの  
腰よりいせらるものとりくどあは然るをり<sup>六</sup>さねとこの  
血をちよあぢあぢせしむるアブラハムより十分の一と  
てその約束をたのめるものを祝せり。あぢあぢのいまま  
れるもの祝する論まきとありハとるる十分の一を  
うくるもの死へまゆもの。のいあらは清めありと證せら  
るる<sup>九</sup>まよ十分の一とらうとらうのレビもアブラハムよ

より十分の一とをまゆとりのあぢ。そのメルキセデクが  
このまよあくるときレビもその父の腰をまゆる。士民レビ  
のいふある祭司の職をのこぎを律法をうけらるもの  
らの職より完全とあぢあぢるんぞはうマロンのことと  
とてあはさるメルキセデクの位のじとき祭司のことと  
のいふやまよ祭司のまぢこのまるとまゆ律法もまゆ  
かあぢあぢのまゆ<sup>十三</sup>。まゆらのことと祭壇はつとあぢる  
ものあき支派は屬ものどきせり<sup>十四</sup>。モーセの支派は  
ユダよりいふ<sup>十五</sup>。こととあぢあぢるる。モーセの支派は  
つと祭司の職のこととあぢあぢるる<sup>十五</sup>。まよ

エルキセデクのごときはらの祭司あがりしるを律法のくご  
るごときゆりあへあきりけし<sup>一七</sup>このまの肉體は<sup>一八</sup>このま  
るの法はあへびたむくちぎる生命のちまはあ  
がひえおせり<sup>一七</sup>そのエルキセデクのごときあ  
はくせりあへ祭司とと證せられし<sup>一八</sup>あ  
律法はあへ<sup>一九</sup>あ  
ゆ急よあごの法度はそのよあきと益あきとあ廢せ  
れ。さうよあごの望をたせられし<sup>二〇</sup>あ  
望はあご神はあへ<sup>二一</sup>あ  
あへあへ<sup>二二</sup>あ祭司とああごのあ  
あへあへ<sup>二三</sup>あ

あへり。これまをあきあひとあへ<sup>二四</sup>あ  
テクの位の<sup>二五</sup>あ祭司とあ  
よああごの<sup>二六</sup>あ耶穌はあへあ  
らあはあご<sup>二七</sup>あの中保とあへ<sup>二八</sup>あ  
死あはあへあへ<sup>二九</sup>ああああ祭司とあ  
りあああ<sup>三〇</sup>ああああ耶穌はあへあ  
ああああ<sup>三一</sup>あ祭司のああああ  
ああああ<sup>三二</sup>ああああああああああ  
ああああ<sup>三三</sup>ああああああああああ  
ああああ<sup>三四</sup>ああああああああああ  
ああああ<sup>三五</sup>ああああああああああ  
ああああ<sup>三六</sup>ああああああああああ  
ああああ<sup>三七</sup>ああああああああああ  
ああああ<sup>三八</sup>ああああああああああ  
ああああ<sup>三九</sup>ああああああああああ  
ああああ<sup>四〇</sup>ああああああああああ  
ああああ<sup>四一</sup>ああああああああああ  
ああああ<sup>四二</sup>ああああああああああ  
ああああ<sup>四三</sup>ああああああああああ  
ああああ<sup>四四</sup>ああああああああああ  
ああああ<sup>四五</sup>ああああああああああ  
ああああ<sup>四六</sup>ああああああああああ  
ああああ<sup>四七</sup>ああああああああああ  
ああああ<sup>四八</sup>ああああああああああ  
ああああ<sup>四九</sup>ああああああああああ  
ああああ<sup>五〇</sup>ああああああああああ  
ああああ<sup>五一</sup>ああああああああああ  
ああああ<sup>五二</sup>ああああああああああ  
ああああ<sup>五三</sup>ああああああああああ  
ああああ<sup>五四</sup>ああああああああああ  
ああああ<sup>五五</sup>ああああああああああ  
ああああ<sup>五六</sup>ああああああああああ  
ああああ<sup>五七</sup>ああああああああああ  
ああああ<sup>五八</sup>ああああああああああ  
ああああ<sup>五九</sup>ああああああああああ  
ああああ<sup>六〇</sup>ああああああああああ  
ああああ<sup>六一</sup>ああああああああああ  
ああああ<sup>六二</sup>ああああああああああ  
ああああ<sup>六三</sup>ああああああああああ  
ああああ<sup>六四</sup>ああああああああああ  
ああああ<sup>六五</sup>ああああああああああ  
ああああ<sup>六六</sup>ああああああああああ  
ああああ<sup>六七</sup>ああああああああああ  
ああああ<sup>六八</sup>ああああああああああ  
ああああ<sup>六九</sup>ああああああああああ  
ああああ<sup>七〇</sup>ああああああああああ  
ああああ<sup>七一</sup>ああああああああああ  
ああああ<sup>七二</sup>ああああああああああ  
ああああ<sup>七三</sup>ああああああああああ  
ああああ<sup>七四</sup>ああああああああああ  
ああああ<sup>七五</sup>ああああああああああ  
ああああ<sup>七六</sup>ああああああああああ  
ああああ<sup>七七</sup>ああああああああああ  
ああああ<sup>七八</sup>ああああああああああ  
ああああ<sup>七九</sup>ああああああああああ  
ああああ<sup>八〇</sup>ああああああああああ  
ああああ<sup>八一</sup>ああああああああああ  
ああああ<sup>八二</sup>ああああああああああ  
ああああ<sup>八三</sup>ああああああああああ  
ああああ<sup>八四</sup>ああああああああああ  
ああああ<sup>八五</sup>ああああああああああ  
ああああ<sup>八六</sup>ああああああああああ  
ああああ<sup>八七</sup>ああああああああああ  
ああああ<sup>八八</sup>ああああああああああ  
ああああ<sup>八九</sup>ああああああああああ  
ああああ<sup>九〇</sup>ああああああああああ  
ああああ<sup>九一</sup>ああああああああああ  
ああああ<sup>九二</sup>ああああああああああ  
ああああ<sup>九三</sup>ああああああああああ  
ああああ<sup>九四</sup>ああああああああああ  
ああああ<sup>九五</sup>ああああああああああ  
ああああ<sup>九六</sup>ああああああああああ  
ああああ<sup>九七</sup>ああああああああああ  
ああああ<sup>九八</sup>ああああああああああ  
ああああ<sup>九九</sup>ああああああああああ  
ああああ<sup>一〇〇</sup>ああああああああああ



契約の中保とある。かくの如く、この地の主人は、その職を  
えりて、その土地のけりや、由り、その地を治め、その  
地の契約をたつらんとす。その虧とらるるを、  
らにありて、云主りひきまひけり、  
家とユダの家は、新約をたす、全備するの日、  
の約は、手をとる、先祖をエジプトの地より  
みちびきいせむ日、  
その日、  
みどり、  
よまひけり、その日の地、  
家、

ある契約、  
その心、  
民とある、  
主とある、  
その罪と悪を、  
新といひ、  
なり、それより、  
とれ

第九章 新約の契約、  
その儀とせよ、







さればゆるさるる。三。このゆるぎは天にあるものよ  
のゆるぎたるもの。このゆるぎは、ゆるぎをゆきよめられし  
りと。天はあるもの。ゆるぎよりゆるぎたる犠牲をゆき  
きよめらるるべきあり。四。キリストを眞のゆきよめたる手は、  
つゝくる聖所より。五。ゆるぎより永遠にゆるぎたるため  
神のまへは、あらゆるゆるぎとを眞實の天よりゆきよめ、この  
祭司のまへは、この年ごとにゆるぎのゆきよめたる血をゆきよめ、  
ゆるぎのゆるぎとをゆるぎたるゆるぎとをせむ。六。ゆるぎ  
あつらひむ。このゆるぎのゆるぎめより、ゆるぎのゆるぎ、  
苦しむる。七。ゆるぎのゆるぎを犠牲とあつて、罪をゆきよ

うんがだめよ。世のゆるぎは、ゆるぎあるもの。八。ゆるぎ  
び死して、審判をうくる。九。ゆるぎのゆるぎ、ゆるぎある  
六。ゆるぎのゆるぎ、ゆるぎのゆるぎ、ゆるぎあるもの。七。  
ゆるぎのゆるぎ、ゆるぎのゆるぎ、ゆるぎあるもの。八。  
望みのゆるぎ、ゆるぎのゆるぎ、ゆるぎあるもの。九。  
第十章 律法は、ゆるぎのゆるぎ、ゆるぎあるもの。十。  
この形は、ゆるぎのゆるぎ、ゆるぎあるもの。十一。  
の祭物をゆきよめ、神は、ゆるぎのゆるぎ、ゆるぎあるもの。十二。  
ゆるぎのゆるぎ、ゆるぎのゆるぎ、ゆるぎあるもの。十三。  
よめらるる。罪をゆるぎのゆるぎ、ゆるぎあるもの。十四。

止むらんや。三年にこれの祭をまはさばよとよりつ  
をおはぬがごとくありまらるる。四これ牛と羊の血を  
どくぐとあれをまはさばよとより。五このゆゑよこの世に  
とまらひける。あんぢ犠牲と禮物をこのまはたし  
この又肉體をまはさばよあんぢ燔祭と罪祭をまはさばよ  
七そのときついでいひける。神よまはさばよあんぢの旨を  
なんどくまはさばよ。まはさばよあんぢの旨をまはさばよ。八  
前よいひける。とまはさばよののと燔祭と罪祭をまはさばよ。律  
法よまはさばよいひける。まはさばよのののまはさばよ。まはさばよ  
といひける。神よまはさばよあんぢの旨をまはさばよ。と

まはさばよといひ。その後まはさばよのをたんとためよその前  
のののまはさばよ。十一の旨よまはさばよ。まはさばよのの  
耶穌キリストのひとまはさばよ。あのか肉體をまはさばよ。に  
まはさばよの祭司の日よまはさばよ。まはさばよの奉事をまはさばよ。  
まはさばよのまはさばよ。あまはさばよ。まはさばよのまはさばよ。  
まはさばよのまはさばよ。一次のまはさばよ。まはさばよのまはさばよ。  
まはさばよのまはさばよ。神のまはさばよ。十三その敵をまはさばよ。  
まはさばよのまはさばよ。まはさばよのまはさばよ。十四のまはさばよ。  
まはさばよのまはさばよ。永遠まはさばよ。まはさばよのまはさばよ。十五  
まはさばよのまはさばよ。まはさばよのまはさばよ。十六のまはさばよ。十七のまはさばよ。十八のまはさばよ。十九のまはさばよ。二十のまはさばよ。二十一のまはさばよ。二十二のまはさばよ。二十三のまはさばよ。二十四のまはさばよ。二十五のまはさばよ。二十六のまはさばよ。二十七のまはさばよ。二十八のまはさばよ。二十九のまはさばよ。三十のまはさばよ。三十一のまはさばよ。三十二のまはさばよ。三十三のまはさばよ。三十四のまはさばよ。三十五のまはさばよ。三十六のまはさばよ。三十七のまはさばよ。三十八のまはさばよ。三十九のまはさばよ。四十のまはさばよ。四十一のまはさばよ。四十二のまはさばよ。四十三のまはさばよ。四十四のまはさばよ。四十五のまはさばよ。四十六のまはさばよ。四十七のまはさばよ。四十八のまはさばよ。四十九のまはさばよ。五十のまはさばよ。五十一のまはさばよ。五十二のまはさばよ。五十三のまはさばよ。五十四のまはさばよ。五十五のまはさばよ。五十六のまはさばよ。五十七のまはさばよ。五十八のまはさばよ。五十九のまはさばよ。六十のまはさばよ。六十一のまはさばよ。六十二のまはさばよ。六十三のまはさばよ。六十四のまはさばよ。六十五のまはさばよ。六十六のまはさばよ。六十七のまはさばよ。六十八のまはさばよ。六十九のまはさばよ。七十のまはさばよ。七十一のまはさばよ。七十二のまはさばよ。七十三のまはさばよ。七十四のまはさばよ。七十五のまはさばよ。七十六のまはさばよ。七十七のまはさばよ。七十八のまはさばよ。七十九のまはさばよ。八十のまはさばよ。八十一のまはさばよ。八十二のまはさばよ。八十三のまはさばよ。八十四のまはさばよ。八十五のまはさばよ。八十六のまはさばよ。八十七のまはさばよ。八十八のまはさばよ。八十九のまはさばよ。九十のまはさばよ。九十一のまはさばよ。九十二のまはさばよ。九十三のまはさばよ。九十四のまはさばよ。九十五のまはさばよ。九十六のまはさばよ。九十七のまはさばよ。九十八のまはさばよ。九十九のまはさばよ。百のまはさばよ。

とまら 契約けいやくのいふ事ありとらるのちよ十六主しひたすまら。と  
が律法りつぽうをそのころよ置あきそのあひひよあら十七よたその  
罪つみと悪あくとをいふころよあ十八とありがゆるあり。まら  
ころらのゆる十九あふんよまら罪つみのいめに獻たまころら  
るべ十九ころのゆる兄弟あひなよまら耶穌イエスの血ちよよりそ  
ころらのためよひとまらあ二十き生路いぢぢよる慢おぼ  
その肉體にくたいをいほりまららば二十一至聖所せいせいじよよら二十二を得  
この神かみの家いへをつまらあほのあ祭司まつりあまら二十三これら  
誠實まことのころと疑うたがをいざらざる信仰あゆむをたのむ心のあ二十四  
あひひをそがまきまきみづをのて身みをあ二十五れてち

うぐぐ二十三まらひあらまらとらるの望のぞをいざらば  
してこのころまのころ二十四その約束やくそくせよのい誠信まことあれをま  
り二十五これらたがひは顧かへりて愛心あいのこころと善行よきことをまけま二十六會集あひあ  
をまらあの人ひとよあふんよまら二十七とにあひまらめその  
目めよあ二十八ちうよるを見みてまら二十九ころのころらまら三十  
まらこれら眞理まことをいざら三十一のちまはまら三十二  
に罪つみをまらつまらあふんよまら三十三あふんよまら  
まらあをれて審判しんぱんをまら三十四仇敵あいつぐをまら三十五くらん  
とまら烈火れつゑのころらあり三十六モーセの律法りつぽうをまら三十七  
の三十八二三人の證あかしあらまら三十九くらとふ四十て死しべ





びししをいをたりぬのれまゝあんらにゆりて異邦<sup>いとう</sup>はあアガ  
 ぐらく約束<sup>やくそく</sup>の地<sup>ち</sup>はゆらり。あまどくやくそくをあひ嗣<sup>ついで</sup>  
 イサクヤコとこのは帳幕<sup>はうまく</sup>をさきうその神<sup>かみ</sup>のつくういと  
 むめるところの基<sup>もと</sup>ある京城<sup>きやうじやう</sup>をのぞめあり士あんらに  
 ようにサラもねをゆらるちうらをうけ年邁<sup>ねんまい</sup>うど  
 も子<sup>こ</sup>をうめり。これやくそくせしもの誠信<sup>まこと</sup>ありとあつ  
 れバあり<sup>上</sup>このゆゑは死<sup>し</sup>するゆゑにいとさびひとりあり天<sup>てん</sup>  
 のはしのおほきうと海邊<sup>うみべ</sup>のまゐのうぞへあきからと  
 くらまれいごころよこまらハム多信仰<sup>たしんぎやう</sup>をいごきうて死<sup>し</sup>ぬ  
 り。いまは約束<sup>やくそく</sup>のものをうけざりしがたろろ小<sup>こ</sup>らまを

のをみてよろこび地<sup>ち</sup>はありといみづらり賓旅<sup>ひんりょ</sup>るの寄寓<sup>きよぐ</sup>  
 のありといふくくゆふのの家郷<sup>かきやう</sup>をうけぬ。いところを  
 あらをばあり<sup>上</sup>のれらゆゑその出<sup>い</sup>しところをあめ  
 ちのへるべきの機<sup>はり</sup>ありいあり<sup>上</sup>されどらまはる  
 らは愈美<sup>あきれる</sup>とところ。まゐるち天<sup>てん</sup>はあるところをまゐり  
 このゆゑは神<sup>かみ</sup>ハその神<sup>かみ</sup>ととあつらるをまゐりてまゐり  
 き。そのいれらのためは京城<sup>きやうじやう</sup>をそまへたまふれらる  
 ちんらにまゐりてグラハムハところみらまゐりしときイサクを  
 さげり。このい約束<sup>やくそく</sup>をうけしものありふその獨子<sup>ひとりご</sup>  
 ささげり。この子<sup>こ</sup>はついでに。あんちの子孫<sup>しそん</sup>イサクはまゐり



とらるへらたべしとしなれしうき<sup>十九</sup>のれあめらく神に  
死よりこれをしきうへし<sup>二十</sup>のれあめらく死よりうき  
をうけし<sup>二十一</sup>がこころありき<sup>二十二</sup>信仰よりてイサクはきこ  
んとまらんとよつしをヤコブとエサフを祝せり<sup>二十三</sup>志んうり  
によりてヤコブは志んんとまらんとまらよヨセフのふしの子  
を祝し<sup>二十四</sup>。まらその杖のうらによりて崇拜じとをふせ  
り<sup>二十五</sup>志んうりによりてヨセフは志んんとまらんとまらにイスラ  
エルの子孫のエジプトよりいからんとたつしをこのこり。まら  
あめが骸骨のこころにつしを命たり<sup>二十六</sup>志んうりにより  
て父母ハモーシのうまれしうきとまらそのうらをしき子お

るをみて三月のあひごこれをし<sup>二十七</sup>。まれ士の命をも  
おそれざりき<sup>二十八</sup>志んうりによりてモーシは成長し<sup>二十九</sup>とまら  
のむきめの子とよまらる<sup>三十</sup>をいふこころ<sup>三十一</sup>志んうりによりて  
このこころをうけし<sup>三十二</sup>よりいむし<sup>三十三</sup>の民とこまらる<sup>三十四</sup>  
をうけし<sup>三十五</sup>こころをよし<sup>三十六</sup>キリストのこころよりし<sup>三十七</sup>  
詭評ハエジプトのたうらよりゆるは寶貴とあめらく<sup>三十八</sup>  
報賞をうらめし<sup>三十九</sup>のこころをあり<sup>四十</sup>志んうりによりてこのれハ  
エジプトをそめれ<sup>四十一</sup>王のしうりをおそれざりき<sup>四十二</sup>これ見<sup>四十三</sup>  
ものをみまがごとく<sup>四十四</sup>たんあめづらあり<sup>四十五</sup>志んうりにより  
てくまら<sup>四十六</sup>逾越節と血をそく<sup>四十七</sup>禮をまら<sup>四十八</sup>。そら長子<sup>四十九</sup>

さほちをまものゝ、このまはらふれざらんか、あまのり、  
んくりによりてあまのり、紅海<sup>こうかい</sup>をうのこごり、  
エジプトの人<sup>ひと</sup>のこををらんとてあはせ死<sup>し</sup>せり、  
くりによりて七日<sup>ふたふた</sup>のあひどエリコの城<sup>しろ</sup>をめぐり、  
そのいしぎきくつ、あんにんにあを、  
そ信<sup>まこと</sup>ぢぎらものこと、そのふちひきさうき、  
いしぎきをやまらう、あまのり、  
をいもんや、  
サムエルあまの預言者<sup>よめいんしや</sup>とあのこと、  
うれらあんにんによりてくみくさ服<sup>くわ</sup>、  
義<sup>ぎ</sup>とあまのり

約束<sup>やくそく</sup>のものをえ、獅<sup>し</sup>の口をつぐみ、火勢<sup>ひのいきほ</sup>をけ、  
又<sup>また</sup>そのが、よまきよりて剛強<sup>ごうきやう</sup>せられ、  
いしぎき、異邦<sup>いぼう</sup>人の陣<sup>ぢん</sup>を去<sup>さ</sup>り、  
よつものめ、復活<sup>ふくたつ</sup>をうけ、  
とも愈美<sup>よくみ</sup>よみ、  
このまを、  
あらこれ、縲紲<sup>きんせつ</sup>と囚圍<sup>いご</sup>のころ、  
鋸<sup>のこぎ</sup>みてひられ、火<sup>ひ</sup>まをやられ、  
このまを、  
らを、  
曠野<sup>あらかし</sup>と山<sup>やま</sup>と地<sup>ち</sup>の洞<sup>ほら</sup>と、

さやよひて 三九 信仰よりてはまをえ  
これども 一をいそつをえざりき 一のれもつ  
まらと 偕あうざれば 成全まらとあはさるためよさら  
にまこれらのを神あうりてめ 二に備たをい  
第十七章 このゆゑよりてあうか 一あはくの 見證人 二雲のご  
とくこのをれ 一をま。まはくの 重負とまどる 罪をのぞ  
き。だん志のびく 二をいそつは 置まてる 馳場をいり  
耶穌 三まらと 信仰のみちびきとあうてこれを 成全まら  
わのをのぞわ 一ういそつは 前まあくとらありのよらて  
びようてそのもあうもいとまに 十字架と志のびて神

の座のみぎよび 一ぬ 三まんぢら 倦つられて 一ころをういそ  
あてあうら 一あは。悪人のう 一あはまら 一をい  
も志のびるののをあ 一ぬ 三まんぢら 悪まら 一をい  
ふまら 一血まら 一をい 一まら 一子よ 一をい  
い 一をい 一をい 一をい 一をい 一をい 一をい  
ころ子よまんぢ主のころあを 一のらんむるあうれ。その  
らま 一あまら 一をい 一をい 一をい 一をい 一をい 一をい  
まらあのをくら 一め。まら 一をい 一をい 一をい 一をい 一をい  
あうてらんぢら 一この 徴治を志のび 神の子のご  
とくまんぢらを待る。これら父のころ 一めきら子あ









益あり。あんぢらそれらのためは祈禱せよ。つとむるよ  
きことありてまづそのことには善行をなさんとせよ。こ  
を信ぜしむるあり。十九。これらはゆきみちやうにあんぢら  
らるるをえんがためはあんぢらのりのとんことをさうに求  
手ねがはく。このまじりなき契約の血よりして羊の大牧者  
あるまじらるの主耶穌キリストと死よりよみづくことせし  
平康をこの方の神耶穌キリストよりうけそのまじりなき  
ところをあんぢらの心のうちよあはれし。まじりなきあんぢら  
しその聖旨をあはるるもせんがためにまじりなき善事よ  
あはれあんぢらとまじりなきことせしむべし。榮光りぬる歸

して世々のまじりなきあんぢらアーメン。兄弟よいかにあれあんぢ  
らよは書あはれりたむをまじりなき勸勉のこころをゆるん  
こころを請。二十。あんぢらが兄弟テモテのゆるさるるこころを  
あんぢらあはれし。うれし。はるるやうよまじりなきこと  
うれし。このにあんぢらを見ん。請。まじりなきあんぢらを見ち  
びくものあまびまじりなき聖徒よ安をとく。イタリヤより  
きこりし。この安をあんぢらよと入り。三十五。ねがはく。この恩  
寵あんぢらまじりなきことせよ。このよあはれん。こころをアーメン



010190528672

